

『棟庵白純大和尚』より

僧宝的性格を顯示された祖翁

仏真寺内 グラスマン徹玄

各地の禅センター、寺院、あるいは仏法を研究する学人は、三宝の中のいずれかの特徴をより多く示すものです。それは禅の指導者諸老師方についても言えることです。思うに祖翁棟庵白純大和尚は、僧宝的性格を強く顯わしておられると存知ます。仏宝的あるいは法宝的性格は、大概の寺院に見られる特徴ですが、僧宝即ち僧伽は、志を同じくする者達の協同体の人間関係、その協調が要訣ですから容易なものではありません。実際、人生は人と人とのつながり以外の

ものではないのですが、大概の僧侶、僧堂、寺院は仏宝的もしくは法宝的性格が強いものです。

白純大和尚は、天性僧宝をわがものにした人でしたから多くの要職を歴任され、その指導力を發揮されたものです。

私は一九七〇年（昭和四十五年）に大和尚に相見いたしました。私は日本語を全くといつてよいほど解さず、大和尚もまた英語をほとんど話しませんでした。しかし互いに意思を通じ合うことはとても容易でした。互いにいらぬ気を

遣つたり、わざとらしい態度は全くなく、極めて自然に話し合つたものです。それは互いに思ひ遣り、熱のこもつた会話でした。

白純老師の膝下に暫く過させていただき、高祖道元禪師、太祖瑩山禪師を貫き、嫡々相承し来つた曹洞禪の伝灯に深く触れることができました。また流動的な世界の動向に対する確かな眼とその中での仏法宣揚の赫灼たる情熱に打たれ、勇猛心をさらにふるい立たせられたものであります。また白純老師の「愛語」には強く打たれました。

家族全員が誠心誠意尽していました。それは個人的なはからいを捨てた真心と奉仕の生活でした。白純老師はまた何か事を企てると、絶対の新年をもつてそれを成就されました。その際必要な経費、金銭的な事柄にはまるで無頓着で実行しておられました。檀家や信者の方への奉仕に必要な費用は必ずや与えられるという信念でもつて生きておられましたが、そのような生きざまは、私の知る限り希に見るものでした。

老師は誰れかが他人のことを非難し、自分でそれを認めたとしても、決してその人を叱責せず、時間をかけて解決しようと努力しておられました。かつて犯罪をおかした人でも責任をもつて引き取つて世話をしたり、どんな人にでも縁ある人にはわけへだてなく暖かく接しておられました。来山された方には老師だけでなく、

老師は誰れかが他人のことを非難し、自分でそれを認めたとしても、決してその人を叱責せず、時間をかけて解決しようと努力しておられました。かつて犯罪をおかした人でも責任をもつて引き取つて世話をしたり、どんな人にでも縁ある人にはわけへだてなく暖かく接しておられました。来山された方には老師だけでなく、

確固たるものとするのですから年月を要します。
しかし、それこそ本当の嗣法と申せましょう。

私は白純老師に対して、今生で逢うべくして
出会つたのだという宿世の因縁を強く感じます。

一九七〇年に初相見したにもかかわらず、祖翁
との因縁で前角老師の弟子となつたのだという
気がしてなりません。最近読んだものに、子供
は両親よりも祖父母の気質をより多く受けつぐ
ものだとありました。私の思考方法や行動様式

は師父前角老師よりも祖翁白純老師のそれに近
いものです。一方師父と小子徹玄の間には相違
点ばかりが目につきます。しかし、それだから
こそ本師として仰ぐ因縁もまたあつた訳です。
本師との強い絆は多くの相違点を越えています。
が他方では先述の如く祖翁白純老師に酷似して
いると思います。それはまるで老師の生まれか
わりではないかとさえ思われます。できればそ
うあつてほしいと切望するものであります。

